

行政視察報告書

令和元年10月29日

長浜市議会議長 西 邑 定 幸 様

長浜市議会議員 松本長治

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和元年度 会派清流 行政視察研修
2. 視察期間 令和元年10月21日(月)～10月28日(火)
3. 視察場所及び目的
 - ① 北海道札幌市 「家庭医療学について」・「放射線治療でできることについて」
 - ② 夕張市 「夕張市、映画による町おこしについて」
 - ③ 芽室町 「コンビニ、小さな拠点づくりについて」
「芽室町議会の取り組みについて」

4. 調査内容感想等

・視察の目的

- ① これからの地域医療における、家庭医療学について学ぶ。
- ① 北海道がんセンター名誉院長である西尾正道先生より、放射線治療の現状や、今後の活用について学ぶ。
- ② かつて炭鉱の町として栄え、炭鉱閉山後、ヤミ起債が発覚し深刻な財政難となり、2007年財政再建団体となった夕張市。コンパクトシティ計画を打ち出すとともに、映画によるまちづくりを進めている。人口減少の進む長浜市の将来に今できることは何かを学びたい。
- ③ 芽室町で、かつてJAの支所であった建物を、地域が譲り受けコンビニとして営業されています。小さな拠点がなぜ必要だったのか、どのような過程を経

てこられたか、また、現在どのような課題をお持ちなのかお聞きしたい。

- ③ 早稲田大学マニフェスト研究所による、地方議会の議会改革度調査ランキングにおいてここ数年 1 位である、芽室町議会の取り組みを直にお聞きし、意見交換を行うことにより、長浜市議会の今後の取り組みの参考としたい。

・視察の内容

- ① 関西家庭医療学センターには、現在、長浜でも大変お世話になっており、本部である札幌での研修をさせていただくこととなりました。『ともに創る、確かな学びの先にある、“わたし” という新たな総合診療医』を教育理念とし、総合診療と家庭医療の実践と学びの中で、新たな総合診療医を創造することを目的とされ、専門医研修 3 年間で知識と技術を身につけることと、人となりの組み直しを体験することを可能にする教育を提供されています。

医師としての研修に加え、これからの日本の医療を支えるためには総合診療医を目指し、医療をより広範囲に、かつ極めようとされている強い思いに触れた気がします。

- ① 北海道がんセンターの西尾先生から現在の放射線治療の状況をお聞きした後、センター内を詳しく案内していただきました。私にとっては初めて目にするものばかりであり、説明をお聞きしてもすぐには理解できませんが、それでも私たちにわかりやすくご教示いただきました。

あらためて、放射線治療に関わっておられる医



師や看護師の皆さんは、健康への不安を顧みず、患者さんと向き合っておられる現実に、ただただ敬意と感謝の思いを深めました。

② 車窓から見る夕張というまちは、自然豊か、牧歌的な風景が広がる場所です。

このまちは、石炭産業から観光重視への転換に失敗し、収支悪化を取り繕うために多額の借金を重ねた結果、財政破綻したとのことでしたが、まちを見る限り、表面上、特に他のまちとの違



いは感じません。ただ、炭鉱時代の賑わいを思い起こさせる施設もまだ残され

ており、当時が偲ばれるとともに、ふと時間の進むスピードが、普段と異なる感



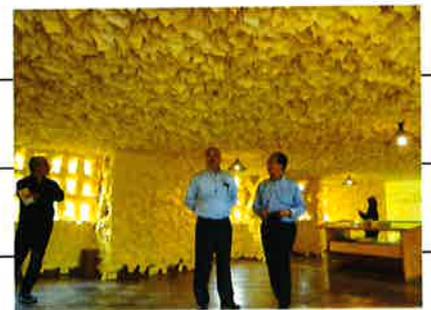
覚になる瞬間があり、これこそ夕張のまちの大きな魅力だと感じました。

次に、夕張は映画の舞台として大変有名で、この映画を生かしたまちづくりをされています。



町の通りには、大きな看板が何枚も掲げられ、映画で使われたセットをそのまま観光地として残

されています。中には当時使われた道具、思い出の写真、メッセージを残せ



る手法など、観光客を魅了する内容となっています。

- ③ 広大な面積を有する北海道では、地元のニーズに合わせたコンビニエンスストアが大人気であり、地域の皆さんの生活の一部として、その役割は大変大きいとお聞きしておりました。実際店舗を見学し、品揃えのほとんどが地元産で、特産品コーナーのある店舗も多く、地元の方が買いたい物を中心に置かれていることが大変印象に残りました。



芽室町の歴史は浅く、農業を中心とした豊かなまちですが、やはり商いを長く続けることは難しいようで、ここで営業をされていた、JA芽室上美生店も平成24年に閉鎖となりました。そこで、平成27年に農村集落活性化支援事業の採択を受け、さまざまな議論を経て平成



30年の3月に寄付金約500万円、会員154名で特定非営利活動法人 上美生を設立されたとのこと。目的は上美生地区の地域住民が安心して暮らし続けられる環境を整え、持続可能な営農支援や子どもの健全育成、高齢者福祉を推進するなど、他にも多くの地域の希望を背負った事業であると感じました。特にスペースを利用して、憩いの場となるようコーヒーマシンを設置、日中は買い物客、夕方は寺子屋として地域の拠り所とされています。『みんなのお店 KAMIBI』には地元農家の直販「ほしぞら市場」を設置。お弁当の販売やイベントの食材供給、葬儀の取りまとめ、ゆうパック取次などを業務とされています。経営は本当に大変だとおっしゃっていましたが、こういうお話を進

めておられる、地域の心の強さと豊かさを羨ましく思います。

- ③ 議会改革に対する評価が、全議会の中で最も高い芽室町議会の議長・副議長より議会の説明をしていただき、意見交換をさせていただきました。

芽室町はゲートボールを考案した鈴木栄治氏の出身地ということから、ゲートボール発祥の地として全国大会も開催されています。また、ビート・小麦・馬鈴薯・スイートコーン・小豆などの栽培を中心とする農業王国です。芽室の農業の特徴として、農家戸数595戸、一戸当たりの耕地面積が34ha、一戸当たり平均5千万円弱の収入という、大変豊かな経営をされていると言えます。また、高齢化率も長浜市とほぼ同じ29%程度、このような芽室町で農業を引き継ぐ際、長男だけでなく次男も一緒に就農されることが多いとのこと、高齢で離農される方から農地を有料で借り上げ、農地の拡大、兄弟が共同で農業をされる。そして土地を貸し出された高齢者は、病院や商店に近いまちなかに住まわれることが多いとのことでした。

さて、芽室町議会についてですが、議会に会派はなく政務活動費もない。平成16年から議会改革のスタートとなる議会基本条例の検討をはじめ、北海道大学や山梨大学の先生方の協力のもと、自治基本条例など、数々の改革をおこなってこられました。当初、特に議会改革を進めることを意識したのではなく、町民の方に議会の活動を知っていただきたいとの思いから、大学の先生方のご協



力を得て進めるうちに、このようになったとのことです。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

① 家庭医療学について、長浜市のこれからのカタチを考えますと、高齢化・過疎化の進む地域が増え、へき地医療や在宅医療がより求められる時代となる。そのような中、関西家庭医療学センターの行っておられる医療のカタチは、とても重要かつ地域の安全安心の柱となると考えます。豊富な知識と経験、単体ではなくチームとしてセンターの行っておられる医療の今後に、大きく期待するところです。

また、放射線治療については、従来から皆がよく知る治療の他に、このような大変有効な治療方法がある事を、多くの患者さんのみならず、医師の方々にもご理解いただくことが必要だと感じました。北海道がんセンターのような施設が近くにあれば意識も違うのですが、どの治療法が適しているか、どこで治療を受けることが患者さんにとって適切かを、医療機関との連携の中で、今まで以上にしっかりと寄り添える機関が構築できるよう、調整が必要ではないかと思えます。

② 夕張の姿は、人口減少の進む全国の多くのまち、未来の我が長浜の姿ともいえます。これからのまちづくりには、何をやめて何を創るか、何を変えて何を変えないかなど、しっかりとした情報を全市民の皆さんと共有しながら、決して一部の人の意見にとらわれることなく、全体を見通してぶれない強い思いで臨む覚悟が必要だと思えます。

③ 明治 19 年に初めて開拓のため入植されて始まった芽室町のまちの歴史の中で、岐阜県揖斐川町からも多くの方が入植され、現在も在住しておられます。そのような関係から、今回揖斐川町長にお世話になり、芽室町の手島町長をはじめ早苗議長・常通副議長とお会いさせていただき、お話を聞かせていただく中で、多くのことを感じ、学ぶことができました。特に農業の考え方、循環型の生活のあり方、そしてこれらを向上・継続させるためには、住民一人ひとりの努力と忍耐が不可欠であることなど、小さな拠点コンビニの維持活動をされている姿からも、学ぶことができます。

また、全国の議会で議員のなり手不足が問題となっていますが、議会モニター制度のように、市民の皆さんのご意見を直接聞ける方法を実践され、その委嘱された委員の中から新たな議員さんも出ておられるとのこと。また、現在長浜でも議論している通年議会については、平成 25 年 5 月から自治法によらない方法を採用、理事者側にも一定先決の巾を持たせることでまわりの理解を得ながら実施されたとのことでした。これらのやり方については、今後の長浜市議会の改革に上手く活用できると考えます。